

<b>1 学校教育目標</b> 自ら学び、自ら考え、生き生きと活動する長松っ子の育成 ～合い言葉:「自分で気づき、必ず実行!! みんなで伸びる長松小学校」～	<b>2 本年度の重点目標</b> ◎信頼される学校づくりとコミュニティスクールの推進 ①心身ともにたくましい子(保健部) ②当たり前のことができる子(生活部) ③みんなで伸びようとする子(特活部)
---	---

達成度 A: ほぼ達成できた  
B: 概ね達成できた  
C: やや不十分である  
D: 不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価							
◎信頼される学校づくりとコミュニティスクールの推進							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○開かれた学校づくり	保護者に学校教育目標及び授業内容や指導方法の周知を図る。	・学校便り1回以上発行、校長ブログ年間90回以上更新し、学校情報を発信する。 ・はなまるメールやHPで、情報を伝えていく。 ・授業参観保護者参加率を、R元年度は90%以上に引き上げる。また、学級懇談会参加率を40%以上に引き上げる。	・読み手の興味・関心を高めるよう、コラム的な内容の学校便りとする。 ・校長ブログでは、学校内外でがんばっている児童を積極的に紹介する。 ・担任から児童の頑張りを定期的に伝えることで、積極的に連携していくつらがりを作る。保護者の声を反映した懇談会にする。	B	・学校便りや学年・学級便りを中心に、学校情報を発信することができた。 ・HPについては、新教育情報システムの導入の際、情報発信の対応が遅れてしまった。 ・授業参観保護者参加率は93%、学級懇談会参加率は48%であった。	・はなまるメールによるこまめな情報発信とHPの定期的な更新を行う。 ・学校と保護者に限らず、地域の各種団体との連携を強化し、地域住民の学校教育への関心を高める。
学校運営	○長松コミュニティの推進	地域・保護者ボランティアの増加と児童による地域貢献。	・H30年度ボランティア延べ人数628人をR元年度は、それ以上に引き上げる。 ・地域行事やボランティア活動に参加する児童を増やす。	・コミュニティスクールとしての活動を通信等で周知させ、協力の輪を広げる。 ・地域行事やボランティア活動に参加する児童を増やすために積極的に呼びかける。 ・全校で、校区のゴミ拾いや花いっぱい活動を行う。	A	・令和元年度は、ボランティア延べ人数が533人で、昨年度を上回ることができなかったが、今年度もたくさんの方に参加していただいた。 ・月1回のゴミ拾い活動を実施し、児童に地域貢献の意識を持たせることができたが、参加児童は十分とはいえなかった。 ・カレンダーやあいさつのはり、UDパンフレットを作成、配布することで、地域への発信・啓発ができた。 ・感謝の会等を通じて、地域の方々にも喜んでいただけた。	・地域や家庭への「コミュニティ・スクール」への理解が十分とは言えないので、今後機会があるごとに、通信等で啓発活動を進める。 ・ゴミ拾い活動や花いっぱい活動を実施し、児童の地域への貢献の意識を高めさせる。
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	校務等の効率化の促進を図りながら、心身共に元気な教師を目指す。	・一人あたりの時間外勤務時間月平均45時間を超えない。 ・勤務時間を超える会議は行わない。 ・週に一回の斉退勤日を実施する。 ・全校朝会や各種式典にかかる時間を5～10分短縮する。	・時間外勤務調査を毎月20日に中し、その時点で30時間を超えている職員にヒアリングする。 ・会議や全校朝会等にはタイムテーブルを設け、効率化を図る。	A	・20日以降のヒアリングについては、実施できなかったが、管理職及び教員で早目の退勤を呼びかけることで、下半期は実施時刻が早くなった。 ・一人あたりの時間外勤務時間は、ほとんどの職員が平均45時間以内であった。 ・週一回の定時退勤日は、他の曜日より実施時刻が早かったが、一斉退勤までは実施できなかった。 ・会議や研修等は、時間内に終わることができたが、緊急な打ち合わせ等で退勤時刻を過ぎることもあった。	・行事の精選や校務分掌における役割分担を見直し、業務の負担軽減を図る。 ・超過勤務が続く職員には、タイムマネージメントの意識を高めるための声かけを行う。 ・チーム学校の意識を高め、共同で組織的な教育活動を目指す。

①心身ともにたくましい子							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●健康・体づくり	運動習慣の改善や定着を図る。	・マラソン月間、なわとび月間などのスポーツ月間に取り組み児童の割合を時間帯等を工夫し90%以上に引き上げる。 ・県のスポーツチャレンジ事業に、学級単位で積極的に取り組む。 ・晴れた日の外遊びを推奨する。	・スポーツ月間には、がんばりカードや賞状等、意欲を持たせる取組を行う。成果を発表する場として、全学年で学年単位のスポーツ大会を行う。 ・県のスポーツチャレンジで、独自の表彰等を行う。 ・運動用具の充実や運動場所の区分け等、運動しやすい環境を整える。	B	・マラソン月間やなわとび月間には呼びかけをし、多くの児童が参加した。各学年曜日を設定し取り組んだので、参加がしやすかったようだった。 ・スポーツチャレンジには多くの学級が参加したが、参加した多くは高学年だったので、低学年の参加も促した。 ・外遊びには多くの児童が取り組んだが、運動場で危険な遊びなどがあったので使い方を徹底しなければならなかった。	・各学年の取り組み日を固定し、取り組みやすい状況を作りたい。朝の放送で参加を呼びかける。 ・高学年だけでなく、低学年の参加もしやすいようになわとび月間に8の字とびなど取り組みやすい活動を提案する。 ・運動場の使い方について全職員へ周知し、徹底する。また、体育委員会などの活動で取り組みたい。
教育活動	○食育の推進と早寝早起きの定着	望ましい食習慣と自己管理能力の育成を図る。	・早寝・早起き・朝ごはんを実践し、好き嫌いのない望ましい食生活ができる児童がH30年度は87%だった。今年度はそれ以上を目指す。	・生活学習習慣100点運動を家庭と連携して行い、望ましい食習慣と生活習慣を身につけさせる。 ・日々の給食指導の他に、年4回の給食指導週間を設け、指導を徹底する。また、級外のサポートを増やし、担任と協力して給食指導をより良いものにしていく。	B	・生活学習習慣100点運動を年3回実施し、家庭と協力して望ましい食習慣と生活習慣に取り組むことができた。 ・栄養教諭の授業参加や、担任が担当で全校の後片付けを確認するなど、給食指導週間を通して食育や給食指導を進めることができた。 ・望ましい食生活ができる児童を増やしたが、昨年同様の87%だった。	・生活学習習慣100点運動を家庭と連携して行い、望ましい食習慣と生活習慣の形成を図る。 ・給食指導週間を活用して全職員で目標を共通理解して取り組み、担任と級外が協力して給食指導をより良いものにしていく。 ・朝ごはんが好き嫌いについての食に関する指導を充実させ、望ましい食生活を実践できる児童を増やす。

②当たり前のことができる子							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○生活習慣の定着	「あ・ス・な・ろ・へ」の定着を図る。	・あすなるへ運動の「挨拶・丁寧な言葉、スリッパ並べ、名前札、廊下の正しい通り返事」を常に意識して生活できるようにする。特に挨拶・丁寧な言葉、廊下歩行については、重点的に取り組んでいく。	・全校集会や学級活動など、教育活動のあらゆる機会を捉え、礼儀や規律を重んじる態度を育成し、規範意識の向上を図る。 ・生活委員会を中心に、「あいさつ運動の推進」、「無言掃除や安全な廊下歩行の呼び掛け」等、児童の自主的な活動を支援していく。	B	・今年度は「挨拶(丁寧な言葉遣い)・廊下歩行」に重点を置きつつ、その他の学校のきまりも守って生活できるように継続的に指導を行った。 ・生活委員会による挨拶調べや廊下歩行調べを行ってきたが、挨拶は校門以外ではあまりよくなかった。言葉遣いも乱れがちであった。	・廊下歩行については、児童相互で注意し合う姿が数多く見られたので、今後も全体的に規範意識が高まるように、継続して、全職員で一致した指導を行っていくようにする。
教育活動	●いじめ問題への対応	いじめ、不登校等の予防や早期発見・早期対応を図る。	・良好な交友関係など、いじめ問題をなくすための心の指導の充実を図る。 ・不登校対応では、家庭との連携を密にし、専門機関とも相談しながら、継続的支援を行う。	・毎月、児童へのアンケートを取り、いじめ等の早期発見に努める。 ・毎月の生徒指導協議会で、気になる児童についての情報を共有し、学校全体で支援していく。 ・QUを活かした取り組みをしたりスクールカウンセラーとの連携を図ったりして、良好な集団作りを目指す。	B	・毎月、生活指導協議会を実施し、児童に対しても学校生活のアンケートを実施してきた。そして、問題行動や不登校などについて気になる児童の様子や対応等について共通理解を図った。また、いじめなどの早期発見・早期解決に努めてきた。 ・昨年度に続き、中学年において、精神的に不安定で学習規律を守れないなどの問題を抱えている児童がおり、適切な指導が求められる。	・生活指導協議会では、問題行動の事案に対してより多く時間をとるようにし、特に注意を要する児童や学級については共通理解を図っていく。 ・学校生活のアンケートやQUアンケートも継続して実施し、いじめや不登校防止に役立てていくようにする。

③みんなで伸びようとする子							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
教育活動	○自主性の伸長	自分で気づき、実行する児童の育成を図る。	・自らを客観的に見つめ、学校や社会のきまりを守るとともに、生活がより良くなるよう率先して行動することができるようにする。	・学級活動や児童会活動を通し、みんなのためにできることを考え行動する態度を育てる。 ・いろいろな取り組みの後に活動の振り返りを行い、がんばりを紹介したり、賞状を与えたりして自己有用感を味わわせる。	B	・代表委員会を行い、学校をより良くするアイデアを全校で出合ったことで、児童が身近な課題に気づくことができた。 ・縦割り大会の表彰や言葉遣いチェックの頑張りを紹介するなど、取り組みの成果を紹介する場面を増やすことができた。	・代表委員会で取り上げられなかった意見も、学校をより良くする考えということで紹介し、よりよい学校づくりにつなげる。 ・児童の頑張りを紹介する活動を引き続き増やしていく。
教育活動	●心の教育	子ども同士、子どもと教師の信頼関係を高めるとともに、人権教育の充実を図る。	・道徳の授業の充実を図るとともに、教育活動全体を通じて自尊感情を高める。 ・日常的に互いを尊重する心を育む指導を充実する。また、人権集会を通して人権教育を推進する。	・ふれあい道徳や通信等を通して、保護者の道徳教育への理解と協力を得られるようにする。 ・年3回の人権集会を充実させる。 ・相手を尊重する気持ちを持たせるために「さん」をつけて呼び合う。 ・男女混合名簿を取り入れ、男女関係なく誰にでも平等に接する態度を育てる。	B	・ふれあい道徳の実施を呼びかけ、全クラス実施したが、保護者への情報発信が多少不足していた。 ・年3回の人権集会は、担当学年を決めて実施したため、学年間で共通理解して指導に当たることができた。 ・代表委員会で「くん・さん」への意識が芽生えてきた段階の目標と設定し、定期的な出来具合を確認したことで、意識の高まりにつながった。	・道徳に取り組んだ内容を通信で知らせるような取り組みが必要 ・人権集会は、今後も担当学年を決め、内容と方法を任せることで、確実な実践へとつなげたい。 ・「くん・さん」への意識が芽生えてきた段階の目標と設定し、定期的な出来具合を確認したことで、意識の高まりにつながった。

④自ら学び、考える子							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
教育活動	●学力向上	学習規律の徹底をはかる。 児童の主体的・対話的な学びを推進する。	・12月の県調査で県平均と同等の学力を目指す。 ・年2回以上の授業の見せ合いを行い、授業力の向上を図る。 ・3ライン指導を実践し、主体的・対話的で深い学びに向けた授業を実践する。	・大志小、第一中との共通した学習規律や学び方を作る。 ・日頃の授業実践において「対話活動」「振り返り」を意識した授業実践に心がける。	A	・校内研を中心に、年2回以上の授業を見せ合い、授業改善への意識が高まった。 ・「対話活動」「振り返り」を授業に位置づけ、3ライン指導を実践することで、児童の主体的な学びが広がった。	・校内研の考え方に基いて授業実践を行うにあたり、身に付けさせたい、見方、考え方、学び方を視覚的に整理することで、算数以外の教科でも活かしてけるようにする。
教育活動	●志を高める教育	自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	・郷土について学ぶ活動の充実を図る。地域の人々との交流を通して学ぶ体験活動を各学年、年3回以上実施する。	・地域の教育資源や人材等を活用した体験活動や講演会を実施する。	A	・体験活動など、地域の人々と交流する活動を各学年とも年3回以上実施することができた。	・学習に活用できる地域の教育資源についても、再検討する。

**4 本年度のまとめ・次年度の取組**  
 ○ 校内研究「3ラインの指導で学力向上を目指す授業設計」をもとに日々の授業改善を行っていく。その実践を通して、活用生きる「見方・考え方」「学び方」「コミュニケーションスキル伸長のステップ」等を明らかにし共有を図る。  
 ○ あいさつや言葉遣い、男女共生に配慮した呼び方などの指導を徹底し、意図的・計画的な人権集会を起点として人権意識の高まりを期す。日ごろの授業でも「生徒指導の3機能」を意識した授業づくりを行い、全教育活動において「人権が尊重される学習集団作り」に取り組む。  
 ○ 保健指導と「生活習慣100点運動」、「ノーマディアデー」等の関連を図り、望ましい生活習慣の獲得に向けた児童の実践意欲を高める。

●は共通評価項目、○は独自評価項目